

川に親しむ

「みんなの力で未来を守る」

おくもり たかお
奥森 隆夫 さん
 さきも
 未来守りネットワーク理事長



奥森 隆夫さん

奥森さんはこのほど、鳥取県西部圏域や中海圏域に対して環境の浄化活動を展開していこうと、特定非営利活動（NPO）法人を設立されました。奥森さんの名刺には、緑にあふれた山から流れる清らかな川と、魚がうれしそうに飛び跳ねている海が、かわいらしいイラストで描かれています。これは、山から川へ、そして海へという水の流れを大切にしていこうという願いからのものだそうです。

今回の取り組みについて、奥森さんは圏域の環境浄化を目的として3つの構想を描いています。

まず一つは「川の浄化」。環境にやさしい無添加洗剤やせっけんを積極的に活用することを一般家庭にPRして、川へと流れ出る排水をきれいにしていこうという取り組みです。

もう一つは、地域の人々が水生生物と親しむことができる「親水広場の整備」。絶滅寸前の幻の淡水魚「アカヒレタビラ」をはじめとした、さまざまな水生生物が生育できる環境保護地域を整備して、子どもたちをはじめ地域の人々が気軽に自然環境と生物に接することができるようにしようという取り組みです。

そして最後は、「間伐材を活用した美保湾の漁礁の整備」。これは、「海の中に、藻がたくさん張り付いた間伐材を埋めて、

魚が成育できる段々畑を作ろうという壮大なプロジェクトです」と奥森さんは説明しています。圏域の山林から伐採した間伐材に特殊な加工を施して海中にたくさん埋めて、その周りにアマモやコアマモといった海藻類を繁殖させて魚の産卵場や稚魚の生育場を整備しようというものです。

「美保湾にすむ魚の量を増やすことで、地域漁業の活性化につながるようにしたい」という願いを込めた取り組みだそうです。また、アマモやコアマモには光合成の働きで二酸化炭素を分解する力があるということから、「空気中の二酸化炭素量を削減する効果も期待できる」そうです。

「ついでに10年以上はかかる一大プロジェクトになる」と語る奥森さん。「実現には、いろいろな課題もあるけれども、ひとつひとつを住民や企業、行政といった圏域みんなの力で解決していけるようになりたい」と決意を語っています。

名称の「未来守り」（さきもり）とは、「未来」を「守る」と、「防人（さきもり）」とを組み合わせた造語です。

「私たちの世代が汚してしまった環境がこれ以上悪くならないようにし、そして次の世代にはきれいに残していかなければならない、という使命感」からのネーミングだそうです。

「環境がきれいになれば人が集まり、産業が生まれます。過疎化の解消や地域活性化につながる活動をしていきたいですね」と抱負を語っておられました。



海中に埋められた間伐材の一例。周りにアマモやコアマモといった海藻類が生えて魚の産卵場や稚魚の生育場になっています。

